冠婚葬祭総合情報誌
全日本ニュース
発行／株式会社フォトサービス
TEL. 03-5980-0290

※本誌に掲載している情報は、一部インターネットなどに掲載されている文献をもとに編集しておりますので、地域・風習等により異なる場合がございます。

全昌寺日仏造形美術フェスティバル展

大覚寺身振り狂言

大覚寺節分祭

活気溢れる駅前の商店街

瓦屋根の続く寺町

現在も尼崎市にお住まいの玉木様から、ふるさと兵庫県尼崎市のご紹介のお便りを頂きました。

昭和三十～四十年代、日本は高度経済成長の真っ只中にあった。阪神工業地帯の一翼を担った尼崎に青空はなく、小学生の私が描いた空は黒ずんだ灰色ばかりであった。

街は工場で働く人たちの熱気にあふれ、阪神尼崎駅から西に伸びる約一キロメートルの商店街や市場は、まともに歩けないほど賑わっていた。ところがこの地域には、歓楽街の活気と喧噪とは対照的な顔がある。東西四百メートル、南北百メートルの地域に十一の寺が立ち並ぶ、祈りの町でもある。一六一八年(元和四)年、藩主戸田氏鉄(うじかね)が尼崎城築城の際に、市域に散らばる十六の寺をこの地に集めた。そして四百年余りたった今も、十一の寺が残っている。

最大の寺、法華宗（本門流）大本山・本興寺（ほんこうじ）には、室町時代の勧学院に遡る僧侶の教育機関があり、僧職を目指す人々が日夜修行に励んでいる。また、広徳寺は豊臣秀吉ゆかりの寺として知られ、本能寺の変の後、明智光秀の軍勢に追われた秀吉が、味噌すり坊主に化けて難を逃れたという言い伝えがある。

門前には、仏具や石材、古道具を商う店が軒を連ね、かつて茅葺きの母屋と登り窯があった琴浦窯の工房もあり、落ち着いた風雅な空気を醸している。近年は欧米人の琵琶奏者や陶芸家も現れ、寺を会場としたフランス現代美術の展覧会が開かれた。四百年続く寺町は今や、国際的な彩りを放ち始めている。

私たちの一年は、お寺の行事とともに移ってゆく。墓前の楢（しきみ）を正月花に替えることから、新たな年が始まる。旧正月の十五日には、境内のどんどで門松やしめ縄を焼く。節分は大覚寺の豆まきと、鉦に合わせて無言で演じる身振り狂言。幼い頃は、暗闇に響く鉦の音が妙に不気味で恐ろしかった。

四月八日の花祭。小さな釈迦像に甘茶をかける。その甘さだけが記憶に残る。八月はお盆。塔婆に法名を書き、仏壇には花や果物、白蒸し、団子を供える。玄関先でおがらに火を点け先祖を迎え、十五日には送り火を焚く。そのあと、塔婆と一緒に供え物を川に流す（実際には川べりに設けられた祭壇に納める）。春・秋のお彼岸には、三世代揃ったお墓参りの姿が目につく。

簡略化されたとはいえ、これらの風習は次世代へと引き継がれてゆく。それは、先祖を敬い慰霊する気持ちを受け止める寺町が存在しているからであろう。

私の家は日蓮宗・長遠寺（じょうおんじ）の檀家であり、祖父母、両親、弟、伯父、叔母の七名が寺内の墓地に眠っている。大阪から電車でわずか一〇分の寺の町・尼崎こそ、私の故郷である。

玉木様、お手紙ありがとうございます。お寺の様々な行事とともに移っていく寺町の一年、生活のディテールが目に浮かぶような素敵なお手紙でした。尼崎市の都市魅力創造発信課の方のご協力で、寺を会場とした美術の展覧会、大覚寺の節分、身振り狂言の写真が見つかりました。

そして尼崎市に行って参りました。抜けるような晴天に恵まれ、阪神尼崎駅周辺の商店街は大変賑わっておりましたが、一歩寺町に入ると、対照的な静謐とした空気がただよい、落ち着いた雰囲気の中、散策をさせていただきました。お寺や神社、瓦塀が続く道は、自然と心まで落ち着かせてくれるようです。子どもの頃から変わらない風景の中で暮らすことは、とても贅沢で幸せなことのような気がします。

◆　◆

今回のふるさとも大変素晴らしいところでした。皆様のふるさと自慢をお聞かせください。お便りをお待ち申し上げております。

あましんアルカイックホール

阪神尼崎駅

尼崎城趾公園

初嶋大神宮

あなたのふるさとを皆様に紹介してみませんか？

皆様の故郷や第二の故郷の、おいしい食べ物・素敵な場所・歴史などをお聞かせください。ちょっとした些細な事でもあなたの思い出深い事なら大歓迎です。ぜひこの機会に多くの人に知ってもらい、あなたの素敵を皆様に分けていただけませんか？採用させていただいた方には謝礼として1万円をお送りさせていただきます。次号の作成都合上、11月30日までにご応募の方から選考させていただきます。
右記の住所に1200文字くらいを目安に文章にしていただき、お名前・ご住所・電話番号を記載の上郵便などでお送り下さいませ。次号（全国版）第一面に掲載させていただきます。なお著作権を侵害するような物は使用できませんので、あらかじめご理解の上ご応募下さい。

応募先
〒170-0004 東京都豊島区北大塚 2-3-15 B1
株式会社フォトサービス　全日本ニュース係宛

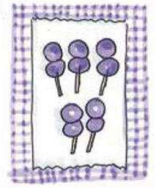
こだぬきポンポコの これなんだポコ？「ブドウあめを作っちゃうポコ！」の巻

作／つきのしずく
絵／恋林あやこ

材料と下準備

- ●ぶどう　10コ（洗って水気をしっかり取る 室温にもどす）
- ●グラニュー糖 100g
- ●水　20g
  混ぜ合わせて耐熱容器に入れておく
- ●竹ぐし　5本（先のとがった部分を切っておく）
- ●クッキングシート（なければ、うすく油をぬったアルミホイル）

①竹ぐしに2つずつぶどうをさします。



②グラニュー糖と水をレンジで600w3分50秒あたためます。

③熱いので気をつけてとりだし、ぶどうにあめをスプーンでかけます。

④クッキングシートの上でさまして出来上がり。

温泉雑学　熱海大特集!!

文芸雑誌「文學界」を史上初の大増刷に導き、芥川賞候補にもなって大きな話題を呼んでいるピース又吉直樹の小説「火花」は、印象的な熱海の花火大会のシーンで幕を開きます。また、又吉氏が敬愛する太宰治も熱海を愛していたことは有名。今回はそんな、文豪に愛される温泉地、熱海の特集です。

2014年 熱海海上花火大会

「熱い海!?」

熱海は約1500年前の仁賢天皇の時代、海中から熱湯が噴き出し、魚が死ぬのを近郷の者が発見、以来「熱い海」から転じて熱海と名付けられたと言われています。また、天平宝字の頃に箱根権現の万巻上人が、この「熱い海」のために不漁に苦しむ漁民たちを救済すべく、祈願により源泉を海中から現在の山里に移したという伝説も残されています。

江戸時代になると徳川家康が1604年、二人の息子を連れ、湯治のため熱海を訪れます。その後、江戸城に熱海の温泉を運ばせた「御汲湯」は有名です。以来、多くの大名が熱海温泉を訪れるようになりました。

その泉質は弱アルカリ性の塩化物泉で、神経痛、筋肉痛、関節痛に効果がある他、保温効果や美肌感も体感できるといわれています。

起雲閣

熱海市指定有形文化財　起雲閣

明治以降は文人墨客が多く訪れ、多くの作品がこの地を舞台に描かれました。代表的なものは、尾崎紅葉の「金色夜叉」、この作品によって熱海の名は全国的に知られることとなります。他に永井荷風や林芙美子の作品があります。

大正、昭和に掛けても川端康成や谷崎潤一郎が熱海に滞在して作品を書いています。

そして冒頭でお話しした太宰治が代表作「人間失格」を執筆したのが、当時旅館だった「起雲閣」。1919年（大正8年）農商相・内田信也の別邸として建てられ、後に実業家根津嘉一郎の手に渡りました。当時の技術を尽くした美しい建築、そして庭園は、現在は市の観光施設として見学が可能。太宰治が宿泊したという座敷ものこされています。

太宰治「熱海事件」

浴衣姿で散策する姿も見える熱海の歓楽街

『走れメロス』誕生秘話として伝わっている熱海事件。その顛末は、昭和11年年末のこと、熱海の旅館に太宰が入り浸って、いつまでも戻らないので、妻初代が太宰の友人である作家檀一雄に「様子を見て来て欲しい」と依頼しました。熱海を訪れた檀と太宰は連日飲み歩き、妻から預かってきた金を全て使い切ってしまいます。太宰は、檀に宿賃の人質となって待っていてくれと説得し、東京にいる井伏鱒二のところに借金をしに行ってしまいます。数日待っても音沙汰もない太宰にしびれを切らした檀が、井伏のもとに駆けつけると、二人はのん気に将棋を指していたといいます。太宰は井伏に、借金の申し出のタイミングがつかめずにいたのですが、激怒する檀に太宰は「待つ身が辛いかね。待たせる身が辛いかね。」と言ったといいます。

後日、発表された「走れメロス」を読んだ檀は「おそらく私達の熱海行が少なくもその重要な心情の発端になっていはしないかと考えた」と「小説　太宰治」に書き残しています。

多くの文人たちが、そして現在話題の作家までもが愛する熱海。その魅力が再発見される時期なのかも知れません。

（画像提供 熱海市 観光推進室）